

〜世紀の大発見から

クニマス復活を目指して〜

「クニマス里帰りプロジェクト」始動中

昨年末、世紀の大発見とクニマスの生存が報じられてから、市では県と共同して「クニマス里帰りプロジェクト」を立ち上げ、様々な活動を通してその可能性を探ってきました。クニマスを知ることで、田沢湖の歴史を知り、環境を見直す。二度は絶滅と思われたクニマスを通して見えるものは様々です。



幻の魚だったクニマスが、幸運にもまた私たちの前に現れました。田沢湖にかつて生息し、辰子伝説が由来の別名「キノシリマス」、殿様へ献上品としての話や、1匹が米1升の贅沢品とも語られるクニマスとは？クニマスが初めて学術的に分類されたのは大正14年。京都大学川村多実二教授がアメリカの魚類学者ジョルダン博士に、3匹の標本を送ったことに始まります。博士は新種と判定し、オンコリナス・カワムレーと名付け、ベニサケが陸封されて生じた新種であると発表しました。



〜田沢湖の今昔①〜
田沢湖へ玉川導入
姿を消すクニマス

玉川の利用は
昔からの大きな課題

玉川の水は酸性が強く、農業用水、生活用水に適さず、流域の開発を妨げていました。玉川温泉のPH1.2、温度98度のお湯が流れる、わが国でも有数の強酸性河川となっています。強酸性除毒の歴史は、佐竹藩が天保12年、角館地方の農業被害を除去するため、田口幸右衛門に命じたことに始まります。



水面に雲を映す田沢湖

湖から消えた生き物たち
しだいに田沢湖は酸性湖に変容し、世界で田沢湖にしか生息していなかったクニマスも絶滅してしまいます。また、イワナ、ウナギ、ヒメマスなども湖から消えていきました。

中和処理が稼働、
少しずつ甦る田沢湖
平成元年10月、中和処理施設の試験運転開始。平成3年4月から本運転を開始しました。中には石灰石が1日40トン使用されます。流域土壌の酸性を緩和し、米の収穫増など様々な効果が出ており、田沢湖では水質も徐々に改善し、ウグイ等も生息してきています。

日中戦争が始まった昭和12年、電源開発と農地開拓を目的に、田沢湖に玉川を導入する方針が決定。田沢湖は発電用ダムと農業かんがい用ため池の役目を果たすことになりました。仙北平野の未墾地を水田に替え、発電と開拓の効果をえられる計画でした。強酸性の玉川流入による、湖の生態系の破壊は心配されましたが、当時は戦時体制下、国策に沿うこの事業は発電所建設などが順調に進み、昭和15年、導入路から玉川の水が田沢湖へ流

〜田沢湖の今昔②〜
田口三之助翁と
田沢湖疎水トンネル

田沢湖畔の白浜に石碑が建っています。地域のため疎水トンネル（トンネル）を完成させた田口三之助翁を讃え、大正6年石神地区の住民が建立しました。



三之助翁を讃える記念碑

当時の玉川は酸性度が高く「玉川毒水」と呼ばれるほどでした。石神地域では玉川の水を灌漑用水に使用していたため、収量が少なく、農民の生活は苦しいものでした。生保内の阿気に生まれた田口三之助は、田沢湖から水を引くことができればと、疎水トンネルの工事を計画します。

当時の地域にその資金を出す余裕は無く、三之助は苦勞のすえ秋田藩から補助を取り付け、文化2年工事に着手。約二百間（約370m）の長さを、人の手で掘り抜く大事業は難航し、やがて藩からの補助も打ち切ら

昭和15年、電源開発と農地開拓の計画で玉川の水が田沢湖に導水され、この疎水トンネルは閉鎖されましたが、平成4年田沢湖畔地域の特定環境公共下水道整備事業の際、幹線設置に再利用され、大いに役立ちました。先人の偉業がここに甦り、現在も地域環境を守っています。

クニマス里帰りプロジェクト

田沢湖の環境を考える

昨年12月21日に立ち上げられたクニマス里帰りプロジェクトは、地元関係団体で構成する「クニマス会議」と連携を図った取り組みを展開しています。

◆主な事業内容

- ・クニマス生態調査 (秋田県、山梨県合同)
- ・田沢湖水質実態調査
- ・クニマスふるさとPR事業
- ・クニマスふるさと看板製作設置
- ・フォーラムの開催
- ・田沢湖、西湖友好提携調査
- ・田沢湖畔整備構想の検討
- ・白い砂浜の実現、史料館整備

「第3回クニマス里帰りプロジェクト会議」では市側から、中和処理について、石灰石以外の手段の検討や、田沢湖の環境整備のため、水上バイクの騒音や油漏れ、指定区域外での走行など、湖面を利用する際のマナー問題を解決する必要性を提案しています。

7・30	6・8	6・1	5・25	5・24	4・1	3・30	3・5	2・22	2・20	2・14	2・12	2・12	1・25	H23 1・17	12・27	12・25	12・21	12・15	H22 12・15	
「クニマス発見記念フォーラム」開催。中坊教授の特別記念講演、パネルディスカッションが行われた。			大曲農業高等学校「農業クラブ」が研究している「石灰石に頼らない玉川強酸性水の中和方法」について、市が意見交換	第3回「クニマス里帰りプロジェクト」会議。今後の活動について意見交換	両市町議会の密接な連携の意見交換	富士河口湖町議会議員団が仙北市を訪れ、両市町議会の密接な連携の意見交換	富士河口湖町と今後の連携を確認	地元関係団体が構成「田沢湖クニマス会議」発足。プロジェクト等との連携を検討	富士河口湖町と今後の連携を確認	山梨県が検討しているクニマス生態調査への協力と調査内容について協議	第2回「クニマス里帰りプロジェクト」会議	県立大学杉山客員教授がクニマス講演会	京都大学中坊教授および富士河口湖町訪問	今後の取り組みを理事、市長等が協議	市がクニマス里帰り実現へ県に支援を要請	「クニマス里帰りプロジェクト」立ち上げ	「クニマス発見記念フォーラム」開催。中坊教授の特別記念講演、パネルディスカッションが行われた。			